

株式会社さくら都市総合研究所

清水 秀幸
席員
主研究16 長野駅周辺を
考える

一方、中心市街地の防災機能としての果たすべき役割を考えた場合、長野駅を含む善光寺口とその周辺は、二次交通網の整備・充実のもとより、ハブ駅との軸線上さらに重要な役割を果たすべきエリアとなる。

それは、単に交通や来街者に対する商業的期待感に込めるものでなく、「人を守る」という都市防災機能の高度化という役割だ。

読者も知つてのとおり、長野市に直接的被害をもたらすであろう活断層は、糸魚川―静岡構造線断層帯と、善光寺地震（1847年）を引き起こした長

野盆地西縁断層帯の二種類。そこにどこでも発生しうる直下型地震を加えた、三つの地震に揃えた防災対策が必要になる。

相対的に、長野市に限らず、わが国の都市は、本来の都市基盤整備が十分されることなく、人口、産業構造を軸とする都市化が急速に進んだことにより、地震等の各種の災害に対して構造的脆弱感はない。

長野市の場合、大規模地震による津波の心配はないにせよ、犠牲者が発生した場合の「人災」といわれる建物・電柱等の倒壊、建物の不燃化、木密地域の整備、とりわけ老朽

建築物の除却にはじまるハードな対策や、災害発生時の避難路・避難場所の確保、鉄道等の運行不能の場合の帰宅困難者の収容といったソフト対策は、未整備な点が多く散見される。

（続く）

清水 秀幸氏（しみず・ひでゆき）1952年長野市生まれ、76年明治大学政経学部政治学科卒。2013年6月株式会社守谷商会役員を退任し、同年7月株式会社さくら都市総合研究所を設立。長野市都市計画審議会専門委員ほか3委員、その他各地方自治体の審議員・部会員を兼任。現在同研究所社長



長野駅善光寺口とその周辺